

小学校の頃の思い出



徳川家18代当主
徳川記念財団理事長

徳川 恒孝 氏

教育随想

先日、まだ空いている午後の電車のなかでゆっくりと座って前を見ますと、三人のランドセルを背負った小学の三〜四年生と見られる子供達が、夫々自分の携帯電話の画面に向かい、もう無我夢中の様子でした。子供達の指の動きの速さに感心しながら、随分と変わったものだとつくづく思いました。

私が小学校に入りましたのは昭和二十一年、戦後最初の一年生で、超満員の電車通学でした。その超満員振りは大変なもので、小さな子供は大人達の身体に押しつぶされ、大人達は子供が潰されないように懸命に庇ってくれていました。

「おい。子供がいるぞー。押すなー！」
「網棚に上げろー！」
「駄目だー、網棚には網が無いぞー！」
などと車中に言葉が飛び交い、車中の人達がどつと笑ったりしながら、それでも子供達が潰されないように、小さな隙間を作ろうとしてくれました。

電車はよく止まりました。止まると人々は飛び降りて線路沿いを歩き

ます。子供達は電車から放り出され、下にいる大人が上手く抱きとめてくれました。ガードの枕木をヒョイヒョイと渡るのになかなか怖いことでしたが、誰か大人がつまみ上げて、背負ったり、肩車にのせて渡ってくれ、「オジサン、有難う」と言っても振り向きもしないでサッサと行ってしまします。

駅前の闇市も楽しいところでした。ここでも「坊主」と呼ばれ、小さな飴をポンと一つ投げて貰ったりましたものです。(無論母親には内緒の話です。)

全く暖房設備のない教室での三学期には、休み時間の度にワツシヨイワツシヨイと教室の隅で押しくら饅頭をしたものでした。皆の坊主頭から湯気が昇ってるよ、と先生方に笑われたものです。先生方もよく生徒達と一緒に遊んでくれました。ある雪の積もった日に、生徒達が机を叩いて「雪合戦、雪合戦」と声を揃えて叫んだ時、につっこり笑って「よし、雪合戦だ！」と一緒に遊ばれました。もっとも先生の雪球

は強く速く、皆は逃げ回りましたが。今日でも往年のいたずら坊主が集まりますと、懐かしい先生方の話が席を賑わせます。
電光のような指を持っている子供達が、夫々のゲームの世界に没頭している姿を見ながら、この子たちも、何十年か後に、懐かしい学校と先生方を思い出して盛り上がるのだろうと思うと、なんとなく温かく嬉しくなりました。



平成27年5月1日

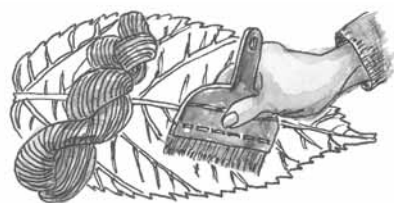
5月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
徳川家18代当主 徳川記念財団理事長 徳川 恒孝氏	
この人に聞く	2
草木染工房「しかり」房守 柴田 玲甫氏	
羅針盤	2
道徳指導員	本郷 一毅
ふれあい	3
六ツ美南部小	太田 信
特集	4
学び続ける岡崎の教師	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
学習発表会(読み上げ算) (昭和42年)	
この本を	8

この人に聞く



色をいただく

草木染工房「しかり」房守

柴田 玲甫 氏

朝から降り続く小雨に打たれ、工房へ続く道の新緑が美しい。草木染工房「しかり」は、岡崎市の東部、里山に囲まれた集落の中に、景色に溶け込むように静かに建っている。

柴田さんが草木染を始めたのは、四十年前程前である。

「元々は書の道を歩んでいました。そこで出合った中国周代の金文や甲骨文の魅力を感じ、俳句や詩をその文字で書くようになりました。そのうち、鑑賞するだけでなく、金文や甲骨文をもっと身近に感じたい、この文字を着たいと思うようになりました。それが草木染を始めたきっかけです。」

身にまとうには、文字を布に染めなければならぬ。この文字を染めるなら、化学的な合成染料でなく、天然の物がいいと考えた。しかし、天然染料を扱う人はごく少数だった。柴田さんは幼子を育てながら、全国



各地で師につき、草木染を学んだ。そんな中で「天然染料を使った型染には後継者がいない。受け継ぐ人がほしい」という師の言葉が心に響き、自分が引き継いでいこうと決めた。「草木染は、二つと同じものができません。同じ種類の染料でも、その植物の成長過程での日の当たり方、風の強さ、雨の量などで、毎年色が変わるのです。驚くかもしれないですが、怒っている日に染めると、それだけで色は変わるのですよ。」

笑いながら話す柴田さんは、そんな想定外の色の変化を、むしろ楽しんでいられるように見える。

「あと大事なのは、水ですね。この工房は井戸水を使っています。周りの山から来るとも良い軟水です。前に制作していたところは水道水でしたから、色の出方が全然違います。」

他にもこの地の利点は多いという。「岡崎は日本の真ん中辺りにあって、平野も山間部もあります。ここは、草木染には最高です。この辺りが生育の北限・南限という草木も多いのです。例えば、他県では買求めていた五倍子という染色の材料が、すぐその山で見つかったのは驚きました。」

しかし、そんな工房の周りにも最近

の開発による変化があるという。「前の年に生えていた木の葉を摘みに行ったら、山自体が工事でなくなっていたこともあり。畑で育てていた藍の芽を、鹿に食べられてしまったことも。でも、人間にすみかを追われた鹿が、そこまで来なくてはならなくなつたということですからね。」

自らを「草木染の普及員」と呼ぶ柴田さんは、工房で教えたり、各地で講座や展覧会を主宰したりと、情熱的に活動している。要請があれば小中学校にも快く出向き、出前授業を行っている。さらに、世界的に希少になりつつある草木染を何とか広めようと、海外に向けても積極的に日本の草木染文化を発信している。最近では、中国の大学で、学生と一緒に植物を採取するところから教え、草木染の魅力を伝えた。またフランスから来たフェルト作家をホームステイさせて、日本の暮らしの中で草木染を体感させたという。

「よく、木・草・花から色を探ると言いますが、私は『いただく』という言葉を使っています。自然から色をいただいているのです。昔から伝わるその一つ一つの色の素晴らしさに感動して、ここまで続けてきましたし、これを次の方に伝えていきたいのです。」

熱心でありながら、どこか軽やかな印象の柴田さんは、自然と向き合い、受け入れながら、今日も伝統的な手仕事の普及に努めている。

氏名 しばた れいほ
生年月日 昭和十五年十一月七日
住 所 岡崎市新居町



「考え方」を引き出す

道徳指導員

本郷 一毅

小学校一年生の「ものを大切にしよう」という授業で、役割演技を取り入れた一場面。使い古した赤いランドセルを磨くA子に、母親役をする担任のB先生が声を掛ける。

「あれ、ランドセルなんか磨いてどうしたの。」

「きれいになるかなって思って。」

と言うA子に、さらに、

「新しいのを買ってあげるよ。だから磨かなくていいよ。」

と続けるB先生。

「でもね、古いのもいいかなって。」

「新しい方がびかびかできれいじゃん。あんなに欲しがってたのに。」

B先生の問い掛けは、子供たちを主人公の心情に共感させることだけにどまらない。ものを大切に使う理由まで引き出そうとして、役割演技を続けた。即興性が求められる場面



強い母親役へ

六ツ美南部小 太田 信

驚きと不安でいっぱいの中で、A子はまっすぐに私を見ていた。六年生の学芸会、「べろ出しちゃんま」の母親役にA子が決まったときのことである。A子は責任感が強く、優しい子供であった。しかし、いま一歩自信がもてず、積極的に前へ出ていくことが苦手であった。そんなA子に自信をつけさせたい、殻を破ってほしいという願いを込め、私はA子を母親役に選んだ。

この劇は、クライマックスで主人公の長松、弟のうめ、そして父親、母親の四人が磔にかけられるシーンがある。母親役は重要かつ難しい役であった。

シリアスな劇の内容ではあるが、練習は活気ある雰囲気が進んだ。「せりふや動きは自由に工夫して加えてよい」というルールのもと、子供たちは日ごとに名優になっていっ

た。しかし、そんななか、A子の演技のか弱さが目立った。優しい母親は演じられるものの、A子は、クライマックスでの息子を思う強い母親が演じきれないでいた。

「A子、もう少し大きい声出せないかな」「A子の場面で、どうしても緊張感が抜けちゃうよ」子供たちからもそんな声が出始めた。

ある日、A子が私のところに来た。「先生、私のせいで、劇、壊しちゃうかもしれない。母親、私じゃない方がいいかもしれない。」

今にも泣きだしそうな顔でそう訴えてきた。私はそんなA子にありのままの思いを伝えた。

「A子のいいところを一番表現できるところでA子を母親役にしたよ。A子にはもっと強いところがあるよ。母親を演じられるのは、A子しかないと思う。」

A子の目から涙がこぼれ落ちた。その涙がうれしさからくるものなのか、追い詰められてのものなのか、正直なところわからなかった。

その日を境にA子に変化が見られた。休み時間には友達と一緒に大きな声を出す練習を始めた。そして、「給食を長松・うめ・父親と四人で食べたい」と言ってきた。家族での食事中に役人に踏み込まれる場面があるからである。A子の演技には、徐々にたくましさ加わっていった。

校内学芸会の舞台上、長松・うめとともに役人にとらえられるシーン。役人たちに床に押さえつけられながら、A子は思い切り役人をにらみつけた。彼女の、あれほどおそろしい目を見たのは初めてであった。まさに、息子を守ろうとする母の目であった。か弱いA子の姿はどこにもなかった。問題のクライマックス。磔はりつけにかけられ槍で突かれる直前、A子は渾身の力を込めて体育館中に響き渡る声で叫んだ。

「うめ。お母さん、先に逝って、待つてからね」

台本にはないせりふだった。全身に鳥肌が立つのを感じた。A子が私の予想をはるかに超えていった瞬間だった。



で問い返すことで、ねらいとする価値についての考え方が明確になる。

道徳の時間で求めるものは、「ものを大切に使う」という行為ではない。その行為そのものが、正しいということを子供はすでに認識している。一方で、よい行いに対する「考え方」は多様である。道徳は、その中から、子供たちがよりよい考えを選択できるようにすることを目標としている。このことは「特別の教科 道徳」となっても変わらない。

B先生は、多様な価値感を引き出すために、子供の意見を予想し、いくつもの問い返しと言葉を考えていた。考え方が明らかになるように、子供の答えに対して、適切な問い返しを繰り返していった。

動作化や役割演技など、活動の工夫をするだけでは、授業のねらいには迫れない。道徳的な行為をするための「考え方」に焦点を当てられるような手だてを考えるようにしたい。

授業の終末に、B先生が子供たちに配った、ぬいぐるみや文房具。これは、保護者から預かった、子供たちが家庭で大切に使えなかったもの。「ああっ」という声とともに、資料の世界での話し合いが、自分の生活につながった瞬間である。

学び続ける岡崎の教師

奥
題
岡崎から宇宙へ、南極・北極へ、そして未来
極地研究所 研究教育系宇宙圏研究グループ准教授 岡田 雅樹



▲ 四季の会 (平成26年5月27日 講師：国立極地研究所 准教授 岡田 雅樹氏)

《各教科・領域・学校が発刊している書籍》



岡崎市では、教員の力量向上を図るために各小中学校や教科・領域で工夫を凝らし、様々な特色ある研究、研修が行われている。昭和三十一年に発足した算数・数学部の「読書会」を皮切りに現在に至るまで、各教科・領域においてサークル活動が活発に推進されてきた。また、各教科・領域がホームページを作成し、最新の情報を公開したり、実践報告や部報、教材などをダウンロードできるようにしたりしている。さらに、市内小中学校の中には、特色ある研究を冊子としてまとめ、全国へと発信している学校もある。

教師自らが、率先して学ぶことにより、教師力が向上し、ひいては岡崎で学ぶ子供たちの成長につながっていく。今後も、教員一人一人が先人の成果を受け継ぎ、子供たちの幸せを実現すべく、一層の力量向上が図られていくことを期待する。

『教員研修必携』
(岡崎・教員の研修に関する委員会)

岡崎の教育三本柱や、岡崎の教育とESDに関する方針、各教科・領域の指導の重点、教員としての心得、市内各施設の情報など、岡崎の教育に関する全般がまとめられている。

『若手教師のための教師力をみがくハンドブック』
(岡崎市教科指導員会 編著)

教師の心得から始まり、学級や授業づくりの方法、子ども・保護者理解の仕方に至るまで、指導にかかわる質問とその答えが記されている。

『系統的な言語活動で鍛える！ 活用力を育てる国語ワークシート集』
(寺井正憲編 岡崎市現職研修委員会国語部 著)

言語活動を通して、各領域別に活用する力をつける教材集。すぐに使える補充・発展教材なども記されている。 ※高学年編は売切・絶版

《各教科のHP》

ここをクリックすると各ホームページを見ることができます。

内部公開ページ		一般公開ページ	
●国語	●道徳	●国語	●道徳
●社会	●特別活動	●社会	●特別活動
●算数数学	●特別支援教育	●算数数学	●特別支援教育
●理科	●学習情報	●理科	●学習情報
●生活総合	●図書館	●生活総合	●図書館
●音楽	●野外活動	●音楽	●野外活動
●図工美術	●保健	●図工美術	●保健
●保健体育	●生活指導	●保健体育	●生活指導
●家庭・技術家庭	●学校車控	●家庭・技術家庭	●学校車控
●英語	●緑化	●英語	●緑化

「OKリンク」からは、各教科・領域のページだけでなく、「教育年鑑」、月報「岡崎の教育」、月報「視聴覚教育」などの発行物や、各コンテスト・コンクールの募集なども見ることができます。
【アドレス】 <http://www.oklab.ed.jp/weblog/06/index.html>

《各教科・領域の自主研修サークル一覧》

教科・領域	サークル名	おもな活動内容
市 全 体	岡崎教員自主研修会「四季の会」	各界で活躍している方を招いた講演会、年間4回実施
国 語 科	さわらびの会	板書の基礎基本、教材分析、作家の講演、「書くこと」研修会など
社 会 科	セーリング	講師を招いての授業実践、単元開発の勉強会など
算数・数学科	算数・数学教育授業研究部会 (読書会)	教科書課題指導方法の検討、講師講話など
理 科	授業研究研修部	実践報告、指導案の検討、新教材の開発など
	自然観察研修部	天体観測、淡水魚採集会、露頭の観察、化石の採集など
	教材開発研修部	効果的な教材の開発、および教具の工夫や扱い方の追究など
総合的な学習の 時間・生活科	岡崎総合的な学習研究会 生活科授業道場	授業実践に関する協議、フィールドワークなど
音 楽 科	音楽授業サークル	授業実践に関する協議、指導方法の研究など
生 徒 指 導	登校支援自主研修会	希望した教員の相談内容に対する助言など
技術・家庭科	技術・家庭科自主研修会「つなぐ」	教材・教具の研究、授業実践に関する研修、指導案検討など
家 庭 科	家庭科サークル	授業実践に関する協議や指導法の研究など
保 健 体 育 科	岡崎市体育部自主研修会	技能向上につながる指導法の研究など
英 語 科	岡崎市英語部自主研修会	授業力向上をめざした理論、実践
図工・美術科	自主研修会	題材開発の工夫や実際の制作時に困っている点に答える Q & A など
学 習 情 報	Teacher's Audio-Visual サークル (TAV)	授業に役立つ ICT 活用法、タブレットなどの最新事情、情報モラルなど
図 書 館	学校図書館部自主研修会	読書指導の方法、図書館資料の活用、図書館利用の実践例など
道 徳	岡崎の道徳を楽しむ会	授業記録を基にした指導方法の検討など
特 別 活 動	学級づくりサークル	学級づくりに生かせる技術の習得など
特別支援教育	かいはつ塾	障がいの理解、進路指導等の相談、講師を招いての講話など
保 健	自主サークル	大学教授や医師を招いての講話（救急処置、ライフスキル教育など）、グループの実践発表
野 外 活 動	岡崎レクリエーション リーダーズクラブ (ORLC)	少年自然の家での野外活動指導など



▲さわらびの会
(平成26年10月11日)

※ 問い合わせは、各教科・領域の指導員、または各学校代表者へ

『読書の森』（根石小学校 編著）

この本は、平成12年、当時の根石小学校の職員の手によって編集された。写真の本は、第3作目である。30数年にもわたって続けられている読み聞かせの実践の中からよりすぐりの本が紹介されている。

『新算数指導の疑問
これですっきり It's OK!』
(柴田 録治監修
岡崎市算数・数学教育研究部 著)

授業展開例や、ノート指導・板書のあり方、数字の書き方に至るまで、小学校算数指導の現場から生じた疑問への答えが示されている。

『地域との絆が深まる
学校の子ども祭り』
(西村公孝 監修 城南小学校 著)

地域との絆を強め、大人体験をもたらす「学校の子ども祭り」の、企画から実行までのノウハウが記されている。

『おかざきっ子の造形
一造形おかざきっ子展50年の歩みー』
(岡崎市現職研修委員会図工・美術部 著)

昭和39年に始まった「おかざきっ子展」の歴史の中で生み出された子どもたちの作品や、特色ある取組が記されている。

『ICTを活用した
学び合い授業アイデア BOOK』
(葵中学校授業研究部 編著)

ICT（タブレットPCや校内LAN）を日常的に無理なく活用する授業アイデアを、実践事例形式で多数紹介している。

『明日を拓く 生徒指導』
(岡崎市現職研修委員会生徒指導部 編著)

岡崎市の児童生徒の「生活に関する意識調査」の結果一覧や生徒指導の実践報告、岡崎少年愛護センター関係諸機関の活動・情報などがまとめられている。

手に取って 参加してみよう
力量向上 いかがですか



●教科書採択

○教科書展示会の開催

教科書展示会が、県内二十五か所の教科書センターで開催される。

県教育委員会では、県民の教科書に対する理解や関心を深めるために、教科書展示会を開催する。なお、障がいのある児童・生徒の教科書については、愛知県総合教育センターで展示する。

岡崎地区の教科書センターは、岡崎市中央図書館内にある。展示会も、中央図書館で行われる。展示会場には、投書箱が用意されている。教科書に対する意見や要望を投稿することができ、教科書について広く意見を聞く場となっている。

・展示会場（岡崎教科書センター）

岡崎市中央図書館
岡崎市康生通西四一七十一

☎二二一三二二二

・展示期間

平成二十七年六月十一日（木）

～七月五日（日）

※休館日を除く

・展示教科書

検定済みの教科書

○教科書改訂の予定

小学校では、昨年度教科書の採択替えが行われ、平成二十七年四月より、新しい教科書が使用開始されている。中学校では、今年度採択替えが行われ、来年度より新しい教科書を使用開始する。次のように中学校の教科書は採択が進む予定である。

・中学校教科書

採択……平成二十七年

使用開始……平成二十八年

●教育相談センター

教育相談センター内には、教育に関する相談ができる「そよかぜ相談室」と、登校支援を行う通所施設の「ハートピア岡崎」がある。

「そよかぜ相談室」は、子供の健やかな成長を願い、教育に関する相談をするなかで、保護者・教職員・子供と共に考えながら問題の解決を図っている。主な相談内容は、

- ①特別支援教育に関する相談
- ②就学に関する相談
- ③いじめや不登校に関する相談

である。昨年度から臨床心理士が三名に増え、いじめや不登校などの心の悩みの相談に、より迅速に対応できるようになった。「ハートピア岡崎」では、通所が可能な子供に対して、学校生活への適応性を高め、学校復帰を目指した支援を行っている。そのために、ハートピア専属の臨床心理士の助言を得ながら、一人一人の子供に応じた指導を心掛けている。また、学校の不登校担当者や担任と連絡を取り合い、子供の状態を共通理解して、多方向から子供を支えることができるように努めている。

また、九月からは総合学習

センター一階に、ハートピア岡崎の分室（ハートピア上地）が開所される。これまでは、年度末になると、ハートピアで対応できる生徒数を超えることもあり、通所を断らざるを得ない場合もあった。しかし、今年度から、子供・保護者・学校のニーズにより応えられることとなる。

教職員全員で力を合わせ、子供たちを支えていきたい。

○連絡先

電話七一一三二〇一

○受付時間

月～金 九時半～十六時半

土 九時半～十二時

●表彰

◆第26回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会

○ダブルス 男子の部 優勝

美川中 三年 安藤 誠笙

◆第11回都道府県対抗全日本中学生ソフトボール大会

優勝

常磐中 三年 瀬川 侑奈

◆平成26年度愛知県小学生バレーボール新人大会

優勝

矢作南小

◆第16回東海小学生バレーボール新人大会

優勝

矢作南小

◆第9回スチール缶リサイクルポスターコンクール

○中学生の部 最優秀賞

葵中 一年 市川 菜月

◆第16回創作童話・絵本・デジタル絵本コンテスト
○創作デジタル絵本部門 優秀賞
竜海中 二年 高橋 涼真

◆第22回愛知県ヴォーカル・アンサンブルコンテスト
○中学校部門
金賞（最優秀賞全国大会出場）
竜海中 (Rainbow Girls)

金賞 常磐中 (TKW9)
銀賞 六ツ美北中 (A)
六ツ美北中 (B)
矢作中 (A)
矢作中 (B)

銅賞 南中 (MINAMI中)
竜海中 (Berry Girls)

●平成二十七年学校長会役員

＜小中学校長会役員＞

会長 増澤 徹 (岡崎小)

副会長 内田 幹也 (六名小)

栗田万砂夫 (南中)

加藤 政幸 (翔南中)

渥美久美子 (広幡小)

宇都宮森和 (河合中)

澤田 祥明 (空義館)

岡部 克彦 (六美北中)

鈴木 実俊 (福岡小)

田中 俊二 (大樹寺小)

永田 勲 (竜南中)

会計補佐 長坂 洋人(岩津中)
 評議員 松崎 出(羽根小)
 山田 一夫(三島小)
 大山 敬章(常磐小)
 石井 洋(矢作北小)
 高橋由美子(山中小)
 山本 信幸(常磐南小)
 金指由香里(小豆坂小)
 菅沼 健(夏山小)
 山本 知子(緑丘小)
 福田 貴子(本宿小)
 杉田 吉男(六ツ美中)
 中村 郁夫(福岡中)
 川口 厚(甲山中)
 戸澤 剛(常磐中)
 浦野 公一(額田中)
 加藤 勝巳(竜海中)

副 蜂須賀 渉(男川小)
 ・英語が話せるおかざきっ子研
 究委員会
 長 十河 幸代(恵田小)
 副 福田 貴子(本宿小)
 ・学校評価委員会
 長 和田 実(美川中)
 副 中野渡善樹(根石小)
 ・ESD研究会
 長 小島 寛史(竜谷小)
 副 杉田ひろ子(宮崎小)
 ・科学の心を育てる委員会
 長 柴田 昌一(愛宕小)
 ・教員免許更新特別委員会
 長 加藤 嘉一(六ツ美中部小)
 その他の関係委員会等

研修の参考にしてほしい。
 ○市委嘱研究発表
 ・男川小学校(全教科・領域)
 十月七日(水)
 「ESDの視点に立つ教科学
 習の展開―相手を意識をもって
 関わり合い、思考・判断・表
 現できる子どもの育成―」
 ・六ツ美西部小学校
 (全教科・領域)
 十月十四日(水)
 「自他を大切に、心と体の
 健康に向け主体的に生きる子
 の育成」
 ・葵中学校(全教科・領域)
 一、二次 十月二十日(火)
 「主体的・協働的な学習を軸
 にした、生徒の思考力・判断
 力・表現力の育成―生徒が学
 び合い磨き合う学習を創造す
 るICT活用方法の探求―」
 ・矢作中学校(全教科・領域)
 十一月十一日(水)
 「主体的に学び、向上心あふ
 れる矢中生の育成―『追究す
 る対象』、『自分』、『他者』と
 のかわりを視点として―」

・竜海中学校(全教科)
 十一月十八日(水)
 「『わかる学習指導』第十一
 次研究・一、二次」
 ・連尺小学校(算数)
 二月十日(水)
 「ESDの視点に立ち、算数
 を楽しむ子供を育む岡崎・連
 尺教育―コミュニケーション
 能力を確かな思考力・実践力
 へ―」

●平成二十七年特別委員会

平成二十七年度は以下の十一委
 員会を置き、岡崎市の教育活動の
 充実・発展を図る。

〈小学校長会〉
 会長 内田 幹也(六名小)
 副会長 渥美久美子(広幡小)
 石井 洋(矢作北小)
 山田 一夫(三島小)
 鈴木 実俊(福岡小)
 山本 知子(緑丘小)
 福田 貴子(本宿小)

長 菅沼 健(夏山小)
 副 大西 和夫(六ツ美南部小)
 ・教員の研修に関する委員会
 長 杉田 吉男(六ツ美中)
 副 清水 範彦(美合小)
 ・資質向上研究委員会
 長 高須 亮平(梅園小)
 副 小田 昌男(六ツ美西部小)
 ・情報教育推進委員会
 長 本間 茂夫(岩津小)
 副 名倉 嘉章(新香山中)
 ・郷土読本編集委員会
 長 松浦 良昭(城南小)
 副 後藤 充人(矢作西小)
 ・授業改善委員会
 長 田中 俊二(大樹寺小)

長 菅沼 健(夏山小)
 副 大西 和夫(六ツ美南部小)
 ・教員の研修に関する委員会
 長 杉田 吉男(六ツ美中)
 副 清水 範彦(美合小)
 ・資質向上研究委員会
 長 高須 亮平(梅園小)
 副 小田 昌男(六ツ美西部小)
 ・情報教育推進委員会
 長 本間 茂夫(岩津小)
 副 名倉 嘉章(新香山中)
 ・郷土読本編集委員会
 長 松浦 良昭(城南小)
 副 後藤 充人(矢作西小)
 ・授業改善委員会
 長 田中 俊二(大樹寺小)

○岡崎市教育委員学校訪問
 ・根石小学校 五月十一日
 ・南中学校 五月二十八日
 ・甲山中学校 六月二十二日
 ・生平小学校 九月七日
 ・岩津小学校 九月二十八日
 ・岡崎小学校 十月八日
 ・竜南中学校 十月十九日
 ・奥殿小学校 十一月九日
 ・東海中学校 十一月十九日
 ・広幡小学校 十一月十四日
 ・福岡小学校 一月二十八日

〈中学校長会〉
 会長 栗田万砂夫(南 中)
 副会長 加藤 政幸(翔南中)
 岡部 克彦(六美北中)
 宇都宮森和(河合中)
 永田 勲(竜南中)
 杉田 吉男(六ツ美中)
 加藤 勝巳(竜海中)

副 蜂須賀 渉(男川小)
 ・英語が話せるおかざきっ子研
 究委員会
 長 十河 幸代(恵田小)
 副 福田 貴子(本宿小)
 ・学校評価委員会
 長 和田 実(美川中)
 副 中野渡善樹(根石小)
 ・ESD研究会
 長 小島 寛史(竜谷小)
 副 杉田ひろ子(宮崎小)
 ・科学の心を育てる委員会
 長 柴田 昌一(愛宕小)
 ・教員免許更新特別委員会
 長 加藤 嘉一(六ツ美中部小)
 その他の関係委員会等

○自主研究発表
 ・本宿小学校(英語活動)
 十月三十日(金)
 「生きる力を育む小学校英語
 の創造2015―英語が話せる本
 宿っ子をめざして―」

○指導員合同訪問
 ・緑丘小学校 六月十八日
 ・山中小学校 六月十八日
 ・秦梨小学校 六月十八日
 ・三島小学校 十一月十二日
 ・小豆坂小学校 十一月十二日
 ・額田中学校 十一月十二日

●平成二十七年研究発表校

今年度の研究発表校は、市
 委嘱三年次発表の三校と二年
 次発表の二校、自主発表の三
 校である。これからの研究、

今年度の研究発表校は、市
 委嘱三年次発表の三校と二年
 次発表の二校、自主発表の三
 校である。これからの研究、

・カ
ツ
ト
常
磐
小
宇
野
友
啓

「学習発表会（読み上げ算）」 （昭和42年）

写真提供：宮崎小学校

写真は、昭和四十二年の学習発表会の様子である。各学年の選抜メンバーが、舞台上で珠算の腕前を披露している。

学習発表会のプログラムには、劇や音楽と並んで珠算や習字、保健の発表などと書かれてある。習字の部では、代表の子供が舞台上で書き、すぐに舞台後ろに掲示して披露していた。

当時宮崎小学校は、額田町立であり、同じ敷地内に宮崎小学校と宮崎中学校（後に額田中学校に統合）が設置され、運動場や講堂を共用していた。そのため、運動会や学習発表会などの大きな学校行事は小中学校が合同で行い、交流していた。

壇上の子供たちの表情が得意げで頼もしい。日ごろの学習の成果を発表する場の工夫は、総合的な学習の時間にかかわる発表会等が、現在の学校でも脈々と生かされている。



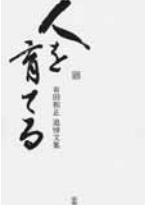
「ほととぎす あすはあの山 越えて行かう」
福山雅治さんのCMでよく耳にした、この種山頭火の俳句は、新年度を歩み出した教員に実にふさわしいものではないだろうか。目の前の子供たちの笑顔のために、書籍を読んだり、自主研修サークルに参加したりする。岡崎の恵まれた環境に感謝し、自らの力量向上のために歩んでいきたいものである。

止まっている蜂が蜜を吸っては、また次の花へ忙しく飛んでいく。岡崎公園の藤棚では、五万石藤が咲き、あたりは甘い香りでいっぱいになっている。この藤は、花のもつ気品と和のイメージ、花ことばの歓迎の意味から市花に選ばれ、市民に愛されている。私も蜂のように甘い香りに癒されに行こう。

と ホ ツ 目 阜



通学途中の中学生に会った。真新しい制服と自転車を見て、遠くからでもすぐに卒業生だと分かった。少しはにかみながら「おはようございませう」と会釈して通り過ぎたその顔は、つい最近まで小学生だったときは違って、なんだか凛々しい。新しい環境で頑張る彼を想像しながら、後ろ姿にエールを送った。



*人を育てる
小学館

有田 和正
¥1,300

心に残った一文

真の教育とは、「先生が教えたからできた、育った」ではなく、「いかにも子どもが自分の力でできたように思わせ、自信を持たせること」である。

新任の頃、「ほめて子供を伸ばす」と先輩の先生に教わった。しばらくして、「三つ叱って、五つほめ、七つ教えて子は育つ」と知り、「ほめ上手にして、叱り上手」になりたいと思った。人はほめられた方向に伸びていき、子供は自信がもてると自分から動き出す。「初心忘るべからず」とよく言うが、本書は「ほめて人を育てる」ことの大切さを改めて気づかせてくれる、初心に返ることのできる一冊である。

*脳はどこまでコントロールできるか？ 中野 信子
ベスト新書 ¥778

*福井県の学力・体力がトップクラスの秘密 志水宏吉+前馬優策
中公新書ラクレ ¥780

*このままでは学校はもたない！ 陰山 英男
教育開発研究所 ¥1,389

城南小 松浦 良昭